

## 経営成績ならびに財政状態の説明および分析

- 東日本大震災、タイの洪水影響により鋼材やアルミ圧延品、銅板条の販売数量が前年度を下回る
- 鋼材価格が上昇したことにより売上高は、前期比61億円の増収
- 鋼材やアルミ圧延品販売数量の減少、鉄鋼主要原料価格の上昇により、減益

### 経営成績に関する説明および分析

売上高	営業利益
2011年度 <b>18,646</b> 億円 2010年度 18,585億円 +0.3%	2011年度 <b>605</b> 億円 2010年度 1,245億円 △51.4%
経常利益	当期純損益
2011年度 <b>337</b> 億円 2010年度 890億円 △62.1%	2011年度 <b>△142</b> 億円 2010年度 529億円 —

当連結会計年度の我が国経済は、第1四半期に大幅な生産水準の低下をもたらした東日本大震災の影響が第2四半期には薄らぎ、回復に向かいましたが、第3四半期以降は、タイの洪水影響を含めた海外経済の減速や円高の定着が重石となり、ほぼ横ばいで推移しました。海外では、新興国を中心に緩やかな成長が持続したものの、欧州における金融不安や、中国における金融引き締めを背景に、成長ペースは鈍化しました。

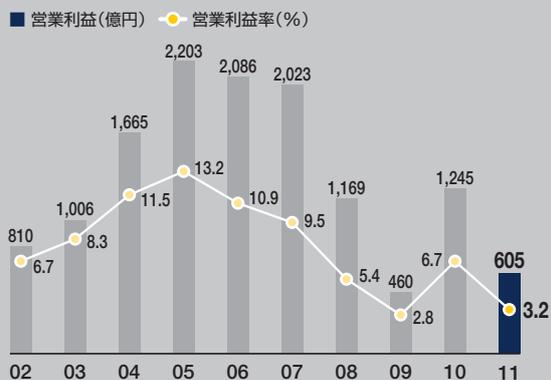
このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鋼材やアルミ圧延品、銅板条の販売数量が、震災やタイの洪水影響などに由来し、前連結会計年度を下回りました。また、中国における油圧ショベルの販売台数も、春節明けの旺盛な需要を取り込んだものの、4月以降は金融引き締めの影響により減少し、前連結会計年度を下回りました。

当連結会計年度の売上高は、鋼材価格が上昇したことなどにより、前連結会計年度に比べ61億円増収の1兆8,646億円となりました。一方、鋼材やアルミ圧延品販売数量の減少や中国における油圧ショベルの販売台数の減少に加え、鉄鋼主要原料価格の上昇などの影響により、営業利益は、前連結会計年度に比べ639億円減益の605億円、経常利益は、前連結会計年度に比べ553億円減益の337億円となりました。また、当期純損益は、第3四半期に特別損失として計上した投資有価証券評価損が株価の回復に伴い一部の銘柄を除き、戻入となったものの、繰延税金資産の取崩しを行ったことなどから、前連結会計年度に比べ671億円減益の142億円の損失となりました。

### 売上高・売上総利益率



### 営業利益・営業利益率



## キャッシュ・フローに関する説明および分析

営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー
△1,383億円	△114億円
2011年度 <b>394</b> 億円	2011年度 △ <b>852</b> 億円
2010年度 1,777億円	2010年度 △966億円
フリー・キャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー
△1,268億円	+579億円
2011年度 △ <b>457</b> 億円	2011年度 △ <b>402</b> 億円
2010年度 811億円	2010年度 △981億円

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前当期純利益が減少したことに加え、仕入債務の減少により運転資金負担が増加したことなどから、当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べて1,383億円減少し、394億円となりました。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形及び無形固定資産の取得による支出が減少したことなどから、当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べて114億円支出が減少し、△852億円となりました。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

長期借入金の返済による支出が増加した一方で、短期借入金が増加したことなどから、当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べて579億円収入が増加し、△402億円となりました。

## 財政状態に関する説明および分析

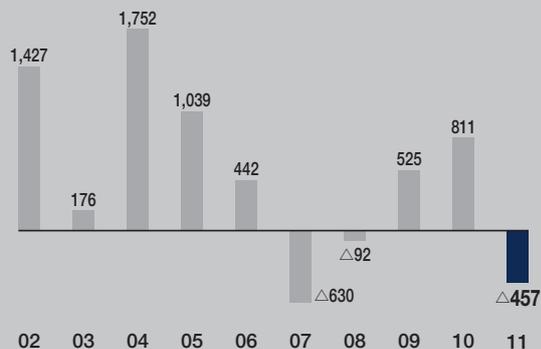
総資産	純資産
△3.2%	△4.4%
2011年度 <b>21,595</b> 億円	2011年度 <b>5,712</b> 億円
2010年度 22,315億円	2010年度 5,973億円
自己資本比率	
△0.7ポイント	
2011年度 <b>23.9%</b>	
2010年度 24.6%	

たな卸資産が増加したものの、現金及び預金や有形固定資産が減少したことなどから、当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ720億円減少し2兆1,595億円となりました。また、純資産については、利益剰余金が減少したことなどから、前連結会計年度末に比べ261億円減少し5,712億円となりました。これらの結果、当連結会計年度末の自己資本比率は23.9%となり、前連結会計年度に比べ0.7ポイント低下しました。

なお、当連結会計年度末のIPPプロジェクトファイナンスを含む外部負債残高は、前連結会計年度に比べ353億円減少し8,101億円となりました。

## フリー・キャッシュ・フロー

■ フリー・キャッシュ・フロー(億円)



## 純資産・自己資本比率

■ 純資産(億円) ● 自己資本比率(%)

